

国指定重要無形民俗文化財 古式十二段舞楽

遠江国一宮 小國神社古式舞楽保存会

一三〇〇年前から伝わる伝統の舞楽、
地域の人々により大切に受け継がれてきた
「古式十二段舞楽」は、舞楽人が大神様への
真心をもって奉納し、国と地域の平安そして、
人々の繁栄の祈りが込められています。



六番 新まつく
古くは「新麻久」と呼ばれ舞人は稚子四人で樺色の布衣を着けて舞います。



七番 安摩
紙の面をつけ、青色の狩衣に冠を被り、手に笏を持って舞います。舞の途中で一切の伴奏がなくなる独特なものです。



八番 二の舞
老爺と老婆が安摩を真似てうまうまいかない様を滑稽に舞います。この姿が「二の舞を演じる」の語源となりました。



九番 陵王
竜頭を着けた恐ろしい面を被り一尺余の笏を持って舞います。赤みがかった装束を着けて勇壮に舞います。



十番 抜頭
稚子の一人舞で白地に刺繍の装束で舞います。二日目には「座頭の坊」と称する舞子が大騒ぎを演じます。



十一番 納蘇利
恐ろしい面をつけ赤い装束を着て天を仰ぐように舞います。活発に動く舞ですが、その面の表情から見る者に重厚さを感じさせます。



十二番 獅子
俗に獅子伏せと言われ三人で舞います。邪気払いとも五穀豊穡の祈りとも伝えられる祝儀舞です。舞曲共に勇壮かつ華やかに舞います。



舞楽奉納時刻表 (進行により多少の変更があります)

順番	舞名	試楽 4月20日(土)	本祭 4月21日(日)
番外	花の舞	14:00~	10:50~
一番	連舞	14:10~	11:00~
二番	色香	14:20~	11:10~
三番	蝶の舞	15:00~	11:50~
四番	鳥の舞	15:25~	12:15~
			12:35~休憩 (神幸祭行列) (14:00~)
五番	太平楽	15:50~	15:40~
六番	新まつく	16:30~	16:20~
		中入り(休憩) 16:40~	投げ餅 (16:30~)
七番	安摩	17:40~	17:40~
八番	二の舞	18:15~	18:15~
九番	陵王	19:00~	19:00~
十番	抜頭	19:20~	19:25~
十一番	納蘇利	19:45~	19:50~
十二番	獅子		投げ餅 (20:30~)



番外 花の舞
祓いの舞で、舞人以外の神職又は、伶人が奏楽に合せ竹の筒から切麻を振って舞殿を清めます。



一番 連舞
舞楽の始めに行う舞で「神に供える」又は「鎮める」意味があります。舞人は稚子二人で天冠を被り鉾をとって舞います。



二番 色香
大人二人が白色で美しい面をつけ独特の上衣に紫の袴を着て、背に円盤をつけ大きくゆるやかに舞います。



三番 蝶の舞
舞人は稚子四人で布衣をつけ天冠を被り胡蝶が花に遊ぶさまを模して舞います。



四番 鳥の舞
蝶の舞と同じく稚子四人で鳥が飛び、遊ぶ姿を模して舞います。装束も蝶の舞と同じですが、舞い方が異なります。



五番 太平楽
乱世を正すと伝わるめでたい舞で「太刀舞」とも呼ばれます。稚子四人が鳥兜を被り鉾や太刀を持って勇壮に舞います。